

令和元年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び

II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成

III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築

IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成

V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 京都府 】

学校名【 京都府立南丹高等学校 】

1 実践テーマ	【 II V 】
2 実施対象者	第3学年 学校設定科目『アスリートC』選択生徒30名 総合的な学習の時間スポーツ科学分野課題研究生徒32名
3 展開の形式	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校への陸上競技の出前授業 ・講師を招いてキンボールスポーツの体験 ・スポゴミ…スポーツの要素を取り入れながらのごみ拾い ・短歌コンクールへの応募
4 目 標 (ねらい)	<p>○高校生が、小学生にスポーツを教えることによって、スポーツとオリンピック・パラリンピックに対する興味、関心を高める。</p> <p>○スポーツを通じたインクルーシブな社会の形成について知る。</p> <p>○『スポーツ×環境』に焦点をあてたスポゴミについて知る。</p> <p>○短歌を通して、スポーツに対する興味、関心を高める。</p>
5 取組内容	<p>6～7月 アスリートCの講座で地域の小学生への陸上競技の指導方法を考え、指導計画の立案と指導案の作成を行った。</p> <p>8月 具体的な指導方法について検討し、高校内で生徒同士で指導者と児童の役を決めて模擬授業を行い、指導案を練り上げた。</p> <p>10月 亀岡市立千代川小学校に行き、高校生が陸上競技大会の種目である走り幅跳び、高跳び、ソフトボール投げについて教えた。</p> <div style="text-align: center;">  </div> <p>小学校への出前授業で小学校5・6年生に陸上競技について教えた。</p>



9月26日

京都府キンボールスポーツ連盟より、講師兼指導者として3名の方に来ていただき、本校3年生の総合的な学習の時間スポーツ科学分野の生徒に、キンボールスポーツの意味、ルールを教えてくださいました。そのあと実際にキンボールスポーツを体験した。



ヒット(サーブ)の打ち方

ヒット時には全員がボールに手を触れていなければならない。「オムニキン」と声を出して相手チームをコールしてから腰より上の部分でボールを打つ。

11月14日

大阪商業大学の先生を招いて、本校3年生の総合的な学習の時間スポーツ科学分野の生徒に、スポーツの要素を取り入れながらごみ拾いをする『スポーツ×環境』に焦点をあてたスポゴミについて、実際に活動しながら指導をいただいた。

学校の近くを流れる大堰川(保津川)の河原でゴミを拾った。



大阪商業大学の原田禎夫准教授から『スポゴミ』についての説明を聞く



『スポゴミ』ルールは自分たちで考える。たとえば事前に落ちているものの種類を見て、空き缶1点、ビニール袋2点…として得点を競ったり、ごみの総重量で競ったりなどが考えられる。

	<p>7月</p> <p>国語科の先生の協力を得て、全学年で国語の時間に短歌についてご指導いただき、京都府高校生短歌コンクール～オリンピック・パラリンピック賛歌～作品を募ったところ、427名から合計874首が集まった。</p>
6 主な成果	<p>○小学校での出前授業では、生徒が教える立場となることによって、スポーツの意義、目的を考え、一つ一つの練習や行動について考えることができた。</p> <p>○小学生たちの幅跳びや高飛びの記録が伸び、大変喜んでいました。</p> <p>○キンボールスポーツでは、誰でもが楽しめ、チームの一体感が高まる競技について理解し、考えることができた。</p> <p>○『スポゴミ』では単なるボランティア活動でなく、スポーツの協議のように楽しみながらゴミ拾いを行うという観点を知った。</p>
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	<p>○小学生を対象とするため、安全管理、危険性や怪我への注意、適切な説明の内容と方法について考えさせ、生徒が適切な指導案をつくるようにした。</p> <p>○キンボールスポーツをヒントとして、自分たちのような比較的運動機能の高い高校生だけでなく、高齢者や障害のある人も一緒にできる競技を考えるように指導した。</p> <p>○ゴミ拾いについては、危険がないよう事前に河原の状況を確認、ガラスや金属でケガをしないよう注意した。</p> <p>○『スポゴミ』で集めたゴミ処理に関しては、NPO法人プロジェクト保津川の協力を得て南丹土木事務所企画調整室に依頼した。</p> <p>○国語科の授業日程に短歌について取り上げる時間を設けていただき、生徒が短歌の形を考えながらスポーツを考えた作品をつくれるようにしてもらった。</p>
8 主な課題等	<p>○小学校という校種が異なる対象のため、相手先との時期や時間の調整が難しかった。</p> <p>○今年度は上記の事業以外に加えて、オリンピック・パラリンピックに関係した選手あるいは選手のマネージャーによる講演を計画していたが、日程の調整ができず実施できなかった。</p>
9 来年度以降の実施予定	<p>○本校は生徒の探究活動と生徒による発表を重視しており、毎年2月には全校で総合学科研究発表会を開催している。総合学科のスポーツ健康系列では、今回の事業で取りくんだ内容を、発表する。</p> <p>○来年度は2020東京オリンピックの開催年であり、スポーツ及びオリンピックへの関心がさらに高まるが、その後も、オリンピック・パラリンピック教育推進事業のテーマが継続できるようにしたい。</p>